

平成30年津別町成人式を開催
38人が新たに大人の仲間入り

平成30年津別町成人式が、1月7日、中央公民館で執り行われ、38人が新たに大人の仲間入りをしました。

式典では宮管玲教育長が式辞を述べ、続いて佐藤多一町長、鹿中順一町議会議長ら来賓の方々から新成人に向けて温かい祝辞が贈られました。これに添えて、新成人が松本和也さんのリードで町民憲章を朗唱。稲部桜さんが、大人としての決意を込めて成人の誓いを読み上げました。

北見室内管弦楽団によるミニコンサートや、中学時代の恩師からのビデオメッセージもあり、出席者の思い出に残る式となりました。



▲町民憲章を朗唱する新成人のみなさん

《社協事業のお知らせ》

社会福祉協議会では、2月～3月に下記の行事を実施いたします。申し込みは津別町社会福祉協議会（佐藤）まで ☎76-1161

「長寿者夫婦の集い」 会食などを楽しみましょう！
日時 2月14日（水）午前11時～ 会場 町民会館
対象者 町内に夫婦のみでお住いの世帯で、年齢合計140歳以上になる方々。
内容 会食・余興（大正琴発表など）、警察官による防犯講話等
参加費 ご夫婦で1,000円 申込期日 2月9日（金）まで



「男の料理教室」 季節感のある献立に挑戦します！
日時 2月28日（水）午前10時～（献立）ちらし寿司、他
3月7日（水）午前10時～（献立）三色ぼたもち、他
会場 町民会館
対象者 町内にお住いの60歳以上の男性の方
講師 津別町役場 管理栄養士 土井ゆかりさん
参加費（材料費）1回300円 申込期日 各回の1週間前まで



津別町唯一の新聞『津別新報』に密着!!

現在インターネットで公開中！ 町のHPをご覧ください



津別町の大きなニュースから、ペットの話題まで幅広く紹介する、町内で唯一のローカル新聞『津別新報』。毎週発行（月に4回発行）を続け、今年で創刊63年を迎えます。唯一の記者で社長でもある相澤さんに密着しました。津別町で生まれ育った記者の相澤さんが、何を思い、何を感じ取材しているのか？ その思いに迫ります。どうぞご覧ください。

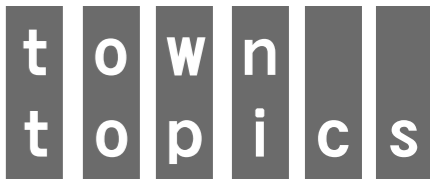


毎月20日
ごろ更新

この番組は、津別町の今を映像で定期的に発信（月1回）することで、町民の町づくりへの参加促進、移住・定住の促進、ふるさと納税の拡大を図り、町づくりの記録を残すことで、10年後20年後の町民への財産とします。完成した映像は、町のWebサイトに埋め込まれる他、道東テレビでも公開いたします。

※この番組は、ふるさと納税の寄附金により制作しています。

《取材希望企業・飲食店・生産者募集!! 詳しくは役場住民企画課まで》
職員がレポートに挑戦
問い合わせ先 住民企画課 企画グループ ☎76-2151（内線215）



まちのわだい

防災・防火への使命を胸に
津別消防署と消防団が合同出初式

1月5日、美幌・津別広域事務組合津別消防署と津別消防団による合同出初式が行われました。

消防庁舎前での開会式に続いて、消防団員が、消防車、救急車などの車両を伴い役場庁舎前を堂々と観閲行進しました。



▶観閲行進の様子

この後、町民会館で功労者、永年勤続者に対する表彰状の伝達式が執り行われ、式に臨んだ消防署員・団員たちは、火事や災害から地域を守る決意を新たにしました。

新年への思いを込めて
新春席書大会開催



正月恒例の第51回新春席書大会（主催 津別町商工会青年部）が、1月5日、中央公民館で開催されました。

大会に参加した町内の小学生は、「こいぬ」「ひろい空」「美しい心」「平成の春」「大自然の美」など学年別に定められた課題の書に取り組み、手本を見ながら伸びやかに筆を運びました。

引き続き行われた審査会で金賞、銀賞、特別賞などが選ばれ、入賞作品は、網走信金津別支店、北見信金津別支店、津別郵便局、中央公民館に展示されました。

消火栓、防火水槽の除雪にご協力いただき
ありがとうございます

消火栓や防火水槽は、消火活動に必要な水を消防車両に供給するために備えられた重要な消防施設です。

消防署では、冬期間職員と団員で町内を回り除雪作業を実施しておりますが、付近住民のご協力により、消防施設が除雪されている箇所が多数あります。

付近住民の皆様には、消防業務へのご理解とご協力を



いただき消防職員、団員一同心から感謝しております。
〈津別消防署・津別消防団〉

地域おこし協力隊の
51回目の
自己紹介

地域おこし協力隊隊員が津別町に来て学んだこと、感じたことをつづります。

51長い冬の間に
自分の未来を描く



田畑久美子
NEO FOLK プロデューサー。東京生まれ。相生にて里山暮らしを満喫中。

早いもので津別町地域おこし協力隊になって丸2年がたとうとしています。協力隊任期は3年間なので、残すところあと1年となりました。

津別町協力隊の先輩には、トラックでサンドイッチの移動販売「山輔」を営まれている福士さんご夫妻や相生の豆腐の味を守りながら子育てに奮闘されているハスオーラさん（ご出産おめでとございます）など、協力隊卒業後も引き続き津別に住まわられている方がいらっしやいます。

いま津別町役場は、新しいローカルビジネスを生むべく、「道東エリアリノベーション」というワークショップを主催しています。また、活汲エリアでは山上木工さん主催の「ツクール」

という廃校舎をリノベーションしたもののづくりの場が、春から開かれるようです。

つべつ西洋軒さんや河本農場さんは、「北海道津別ラーメン」や「朱乃一振」など、津別の名産品を作り上げ、精力的に津別のブランディングを行なっています。どのプロジェクトも「津別町を盛り上げたい」という純粋な郷土愛のもとで成り立っています。

私は卒業後も津別町で暮らす予定です。どんな形で自立していくのかはまだ未定ですが、最後の1年を有効に使って、微力ながらみなさまの「郷土愛」を形にするお手伝いをしたいなと思っています。引き続き、どうぞよろしくお願いたします。

